

令和元年 8 月 30 日

自然に囲まれた古墳時代のトンネル窯を訪ねて

秋雨前線による大雨が続く中、天気が心配されましたが、午前中は曇り、午後からは日差しも差し込むままの天気です。受講生 15 名と一緒にみやこ町、築上町にある古墳から奈良時代の遺跡の見学と遺跡を取り囲む自然を観察しながら野外活動を楽しみました。

テーマは下記の通りです。

- ① 西暦 500 年から 800 年の古墳、飛鳥、奈良時代の国分寺、寺院などの建造物の瓦を焼成していた「古代のやきもの里」の粘土資源、薪、工房、窯の跡地の見学と観察
- ② 丘陵に設けられた窯へと続く山道脇にある多くのコナラの観察
- ③ 築城飛行場横のメタセの杜でのメタセコイアとラクウショウの観察

築上町船迫にある古墳から奈良時代の建造物の瓦を乾燥していた釘を使わない工房や丘陵の斜面に掘られた穴窯の跡を見ながら、工房の乾燥には壁を作らず風通しの良さの追求や窯の温度の均一化を図るために穴窯内に置かれた熱風の邪魔板などの技術に触れ、昔の人の職人ぶりに皆感嘆しました。



また、丘陵の穴窯へ続く山道脇にある多くのコナラは薪として使われたであろうことを想像し、ひこばえの重要性を皆で再勉強しました。また、山道にはハイイロチョッキリが切り落としたドングリが付いた枝が散らばっていました。受講生の方からは切り落とさなくても良いのではとの質問もあり、切り落とさないゾウムシもいるとの話から、どちらが賢いか議論が沸騰しました。

昼食は黒田官兵衛から滅ぼされた宇都宮家の家臣が守ってきた屋敷を改造した庵で田舎料理を頂きました。野菜ばかりでしたがボリュームもありお腹一杯になりました。

昼食後は戦闘機の爆音が鳴り響く築城飛行場横のメタセコイアの杜でメタセコイアとラクウショウを観察しました。今までたくさんのメタセコイアやラクウショウを見てきた受講生より、町が掲げた案内板が正しく表示されていないとの指摘もあり、活気づいた観察会となりました。



今年の九州は盆過ぎからの豪雨で各地大変な被害を受けていましたが、今日だけは雨も降らず、ケガもなく安全に楽しく一日を過ごすことができました。